

平成28年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさを身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。
--------	--

重点目標	「埼玉平成は言葉に強い生徒を育てる」 1 コミュニケーション能力の強化 2 英語教育の徹底 3 徹底した論理的思考力の育成 4 英検・日本語検定の全員受験
------	---

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	5名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標				年度評価(3月4日現在)			
番号	重点目標(評価項目)	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	コミュニケーション能力の強化	日々の授業やキャリア教育での行事を通じて「埼玉平成は言葉に強い生徒を育む」というスローガンのもと、日本語・英語教育を通し「言葉」の教育を徹底し、そのうえでより高度なコミュニケーション能力の育成を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> 平素の学習活動や諸行事を通して、コミュニケーション能力を身につける。 コミュニケーション能力の強化を図り、相手の立場に立って他者を感じる力の育成に力を入れる。 体験的学習、作業的学習を取り入れ、自ら学ぶ力、考える力を育成する 講演会、昼の文学散歩、読書活動などの「言葉」の教育を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校諸行事 朝読書 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭では、クラスや部活動等の発表はもとより、一貫コースでは生徒全員が協力をし、エコキャップアートを完成させた。作業を通して全校生が一丸となり完成した時の達成感を味わうことができた。体育祭では、高校生とチームを組み、中学3年生が所属した白組が優勝。中学生も優勝に貢献。合唱コンクールでは全学年が同じ課題曲に取組み、3年生が最優秀賞・優秀伴奏者賞となった。各行事を通して、お互いの理解を深め、コミュニケーション能力向上に大いに寄与した。 朝読書を通じ、本を読む習慣が身についてきた。また、図書委員会が中心となり、各長期休業前に、教員の推薦図書を紹介することによって、読書への関心を高めることができた。 	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭で、今年は一貫コース全員で、エコキャップアートを制作、今後、環境教育・ボランティア活動等への取組みに発展させたい。 本校の伝統を残しつつ、各行事を見直し、ますますの充実を図る 読んだ本についての感想等を、発表する機会を設けたい。
2	英語教育の徹底	本校の改革の柱の一つとして英語教育の徹底をあげる。本校は創立当初より、国際化教育を実施しているが、入学試験に県内初の英語入試を実施するなど、英語を重視した教育を進めてきたが、さらに英語を本校の重点教科として挙げ、英検合格のための方策などを充実させ、国際社会で活躍できる人材を育みたい。	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会で活躍するための生きた英語教育を充実する。 中等部での国内英語合宿、オーストラリア語学研修旅行、高等部でのアメリカ語学研修旅行の実施、中高一貫希望者の校内ミニ留学、海外ホームステイを引き続き実施する。 ネイティブスピーカーの教員を中心に、放課後のEnglish Station(英会話サロン)を利用し校内で自然に英会話ができる雰囲気を作る。 文化祭時に英語スピーチコンテストの実施。第1ステージは暗唱、第2ステージは、自由テーマで弁論。 S選抜クラスでは、第2ステージまで毎朝、ラジオ基礎英語講座を継続的に取り組む。 高等部では毎週、英語構文(NEXT STAGE)テストを実施する。 オーストラリア語学研修旅行に代わる短期留学の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 英語行事 オーストラリア語学研修旅行成果 国内英語合宿の成果 英会話サロン成果 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のラジオ講座を通じ、リスニングの力が着いてきている。英語構文テスト等を通じて、下級生の受験への意識が向上してきた。 センター入試において、S選抜クラスの英語の結果は、全国平均124点のところ、クラス平均は180点で、最高点は198点であった。 オーストラリア語学研修旅行では、積極的に英会話に挑戦し、マーウィンランバー・ハイスクール訪問の際は、パディーと良い交流ができた。 国内英語合宿は、英語の重要性・有用性の確認ができた。 英会話サロンでは、講師指導型から生徒が進んで英会話に取り組み日常生活で、気軽に英会話に親しむ姿勢が身についてきた。 	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> センター入試(英語)では、大きく飛躍した。結果を分析し、さらに良い結果を残せる生徒を育成したい。 各英語行事の位置づけを再確認し、目的を達成できるようしていく。 オーストラリア語学研修旅行をさらに充実したものにし、その良き伝統を海外ホームステイに生かせるようにする。 来年度の入学生より、英語に特化したコースとして「English Career Course」を設置。ニュージーランドへの短期留学をはじめ、英会話の充実、カリキュラムの変更、英語の行事など設置にあたっての準備通り、スムーズなスタートが切れるよう努力する。
3	徹底した論理的思考力の育成	与えられた事に取り組むだけでなく自ら学ぶ姿勢を身につけ論理的な思考力を育成したい。さらに、自己の考えを他に発信できる力として、生徒全体のプレゼン能力を、向上させたい。CAPS・MESE(Junior Achievement)の取り組みでは、将来「知の甲子園」出場も視野に入れた取り組みをしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習に積極的に取り組み、計画的・系統的なキャリア教育を充実させる。 職業体験、講演会、講話等を通して、勤労観、職業観を形成・確立させる。 将来社会に出て活躍できる経営者としての感覚を磨くため、CAPS・MESE(Junior Achievement)に取り組む。 論理的思考力を育成するため、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体的に解決策を探りださせる。 プレゼンテーション力を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> 外務省等、訪問成果 CAPS・MESE導入成果 教員研修による授業力向上の成果 山と川のフィールドワーク成果 S選抜研究発表成果 	<ul style="list-style-type: none"> 読売新聞では模擬取材体験(端末を使い取材し記事を作成)を経験し、論理的な文章の組み立てを学んだ。 ゲーム感覚だけでなく、堅実に結果を出すための工夫を仲間と考え取り組めるようになった。 学力向上委員会を中心に、模擬授業を実施。教員間で授業力向上の研修を行い、生徒への発問を工夫するなど、生徒の主体的な深い学びが引き出せるようになった。 自分の発表したい内容を、パワーポイントで文字だけでなく、写真等の挿入や、アニメーションを取入れるなど工夫し、自らの疑問を解決し、論理性のある発表ができるようになった。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> プレゼン能力の向上は伺える。さらに問題解決能力やコミュニケーション能力を身につけられるような環境づくりをして欲しい。 MESEでは、よりチーム内で討論し、自分達の根拠を持ち取組めるようになり、校内から全国で競う「知の甲子園」に参加できるような実力をつける。 模擬授業等の研修を通じ、さらに自己研鑽に励むようにしたい。 コンピューター教室の整理と管理
4	英検・日本語検定の全員受験	言葉に強い生徒を育成するため、「言葉」の教育を徹底し、各種検定取得を目指す。NOLTYスコラライト等を利用し、日々の計画と反省を記録させる。計画的学習を定着させたい。	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定合格のための特別時間を設置し、目標級全員取得を目指す。 日本語検定合格のための特別時間を設置し、目標級全員取得を目指す。 日本語検定を土台に、鋭敏な国語力をつけ、感性を磨く。 NOLTYスコラライト(能率手帳)等を利用し、家庭学習を定着させ、学習時間を増大させる。 自習室を活用させ、自学自習の習慣を確立させる。 定期的な個別面談を実施し、細かな目標設定を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定結果 日本語検定の結果 NOLTYスコラライトの活用状況 二者面談・三者面談の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 高3生が1名準1級に合格。中学校では、2級以上に4%合格、準2級以上に26%合格、3級以上合格者は全体の52%で、昨年に比べやや合格率を下げってしまった。 日本語検定4級合格者は全体の60%で昨年に比べやや合格率を下げってしまった。 NOLTYスコラライトの活用状況では、全体的にメモする習慣が身に付き、毎週の目標を立てて行動できる生徒も増えた。また、定期的に二者・三者面談を行うだけでなく、気になる生徒がいれば、すぐに面談を行うなど、生徒の状況把握に大いに役立っている。 	<p>C</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検定対策授業や対策指導をさらに強化し、合格率を上げたい。 英語・日本語検定合格者を増加させるため、英語・国語科での現状把握・指導法の研究。 全員が目標級に合格できるようさらに検定対策授業を充実させる。